長崎がんばらんば国体　アンチドーピングクイズの集計結果に関して

作成：佐世保市薬剤師会　国体準備委員会
委員：荒木恵子、池田照子、井手指月、作元誠司、月川卓実、徳永修、中村三喜雄、納富貴子、山田豊弘（仮名順）

平成 26 年 10 月 12 日から 22 日にかけ、佐世保市で開催された、長崎がんばらんば国体の正式種目 8 競技の内、ソフトテニス、ハンドボールの 2 会場にて、10 月 18 日、19 日の 2 日間、各会場にてアンチドーピングに関するクイズを実施しました。その詳細を、以下に示します。

＜実施の内容＞
①大きく、4 つの設問からなる 2 種類の問題を作成。
②「問題 1」の対象者は、出場選手及び中学生以上の観覧者（一般の方）。
③「問題 2」の対象者は、小学生以下及びドーピングを全く知らない方。
④「問題 1」では、1）うっかりドーピングに関する問題　2）サプリメントに関する問題　3）漢方薬に関する問題　4）TUE に関する問題　を準備した。
⑤「問題 2」では、1）病気になった時の対応に関する問題　2）用法用量の順守の問題　3）健康な身体作りの問題　4）薬物乱用禁止に関する問題を準備した。
⑥「問題 1」では、出場選手及と中学生以上の観覧者の回答を区別した。
＜実施状況＞
※アンケート結果は、2 会場を集計して行った。
●「問題 1」の回答状況
選手：157 名　中学生以上の観覧者：432 名　合計：589 名
●「問題 2」の回答状況
小学生以下及びドーピングを全く知らない方：345 名　合計：345 名
●「問題 1」「問題 2」の回答合計数
合計：934 名

＜アンケートの詳細と結果＞
**「問題 1」：選手及び中学生以上の観覧者**
Ｑ１：大会前に風邪をひいたので、風邪薬を飲んだら、ドーピング防止規則の禁止物質が入っていた。
Ａ１：ドーピング違反になる
Ａ２：ドーピング違反にならない

＜選手＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 134 | 85% | ○ |
| 2 | 22 | 14% | × |
| 0（無回答） | 1 | 1% | |
| | 157 | | |

＜一般（中学生以上）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 405 | 94% | ○ |
| 2 | 24 | 5% | × |
| 0（無回答） | 3 | 1% | |
| | 432 | | |

Ｑ２：より良い成績を残せるように、日頃からサプリメントを飲むようにしている。
Ａ１：ドーピングを気にせず使用できる
Ａ２：むやみに試さない

＜選手＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 14 | 9% | × |
| 2 | 143 | 91% | ○ |
| 0(無回答) | 0 | 0% | |

157

＜一般（中学生以上）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 42 | 10% | × |
| 2 | 385 | 89% | ○ |
| 0(無回答) | 5 | 1% | |

432

Ｑ３：日頃から気をつけてはいたが、急に体調を崩し、薬が必要になった。
Ａ１：漢方薬は安全性が高いので、漢方薬を優先
Ａ２：漢方薬は避ける

＜選手＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 62 | 39% | × |
| 2 | 92 | 59% | ○ |
| 0(無回答) | 3 | 2% | |

157

＜一般（中学生以上）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 164 | 38% | × |
| 2 | 253 | 59% | ○ |
| 0(無回答) | 15 | 3% | |

432

Ｑ４：体調が悪く、病院で検査を受けたら、病気が見つかり、必要な薬の中に、禁止物質があった。
Ａ１：医師に薬の変更や薬の使用申請などの相談が出来る
Ａ２：治療が優先なので、選手をあきらめる

＜選手＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 150 | 96% | ○ |
| 2 | 7 | 4% | × |
| 0(無回答) | 0 | 0% | |

157

＜一般（中学生以上）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 412 | 95% | ○ |
| 2 | 20 | 5% | × |
| 0(無回答) | 0 | 0% | |

432

＜考察１＞

「Ｑ１」は、「うっかりドーピング」に関する項目であるが、４つの質問の中で、唯一、差が出る結果となった。意外にも、「うっかりドーピング」に関しては、選手の方が、ドーピング違反にならないと勘違いしている結果となった。我々は、選手の方がより、敏感に感じているのではないかと予想していたが、一般の方の方が認識としては正確だったのには驚きである。選手においても 85%の方は正解しているので、「うっかりドーピング」に関する認識は、浸透して来ているのではないかと思うが、残りの 15%の選手の方に対する啓発活動が重要だと再認識した。

「Ｑ２」～「Ｑ４」においては、選手、一般の方との認識の差はなく、「Ｑ２」の「サプリメント」に関する問題、「Ｑ４」の「TUE」に関する問題は、いずれも 90%以上の正解率であり、認識されていると判断できる。「Ｑ４」の TUE に関しては、間接的な質問としたが、一般の方も考え方は間違っておらず、

よく勉強されていると思った。
しかしながら、「Ｑ３」の「漢方薬」に関しては、正解率が 60%弱と、まだまだ“漢方薬は安全な薬“と間違った認識が強い事も解った。日本では、「生薬」を含有する一般用医薬品や健康食品類は、多数販売されている。「ドーピング防止ホットライン」の相談にも、ドリンク剤で生薬配合の商品が幾つも上がっている事から考えても、先述の「うっかりドーピング」の問題と共に、今後の啓発活動の課題になると思われる。

## 「問題 2」：小学生以下及びドーピングを全く知らない方

Ｑ１：スポーツ大会の前に病気になってしまったらどうする？
Ａ１：家においてある薬を飲む
Ａ２：近くの病院にかかる
＜子供（小学生以下）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 53 | 15% | × |
| 2 | 283 | 82% | ○ |
| 0(無回答) | 9 | 3% | |
| | 345 | | |

Ｑ２：早く病気を治したいけど、どうしよう？
Ａ１：お薬は、決まった数と回数で飲む
Ａ２：たくさん飲めば、早く治る
＜子供（小学生以下）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 332 | 96% | ○ |
| 2 | 9 | 3% | × |
| 0(無回答) | 4 | 1% | |
| | 345 | | |

Ｑ３：次の大会で病気にならない様にしたい。気をつけるには、どうすれば良い？
Ａ１：早めに薬を飲む
Ａ２：丈夫な体を作る
＜子供（小学生以下）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 24 | 7% | × |
| 2 | 318 | 92% | ○ |
| 0(無回答) | 3 | 1% | |
| | 345 | | |

Ｑ４：友達から「薬を飲んだら元気になったので、残っている薬をあげる。」と言われた。どうしよう？
Ａ１：自分も元気になりたいので、飲む
Ａ２：どんな薬かわからないので、飲まない
＜子供（小学生以下）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 22 | 6% | × |
| 2 | 318 | 92% | ○ |
| 0（無回答） | 5 | 2% | |
| | 345 | | |

＜考察２＞
「問題２」においては、「Ｑ２」「Ｑ４」において、子供さんがどの様に薬を使っているか、裏を返せば、親御さんがどの様に薬を飲ませているかが確認できるのではないかと思っていた。
「Ｑ１」の「病気になった時の対応」に関しては、15％の方は、セルフメディケーションにて対応し、82％の方は病院を受診している。セルフメディケーションで対応する親御さんが非常に少ない状態なので、小児科、耳鼻科が混み合ってしまうのも理解できる。「Ｑ２」の「用法用量の順守」は、さすが日本人、96％の方が、きちんと用法用量を守る事を認識できている。同じく、「Ｑ４」の「薬物乱用禁止」に関しても、92％の方が、薬物乱用は悪い事だと認識している。しかし、わずか 4％ではあるが、「用法用量の順守」よりも「薬物乱用禁止」のポイントが低いのは気になる所である。
直接、小学生以下の子供さんを持つ親御さんにこれらの質問を行った訳ではないので、断定は出来ないが、薬の安全かつ有効な使い方に対する認識は、適切だと思われる。少し安心した。
「Ｑ３」の「健康な身体作り」に関しては、スポーツ観覧に来ているだけはあって、身体作りの大切さを認識しておられる事が解る。薬に頼らず丈夫な身体を作り、将来、日本の代表選手になって、我々を楽しませてくれればと、集計をしながら思った次第です。

以上